風俗孝子物

五

チ 13
3796
5止

昭和九年
九月二六日
購求

早稲田大学図書

風流戦天狗　巻之五

めつのはし行

△力弥　○由良之介

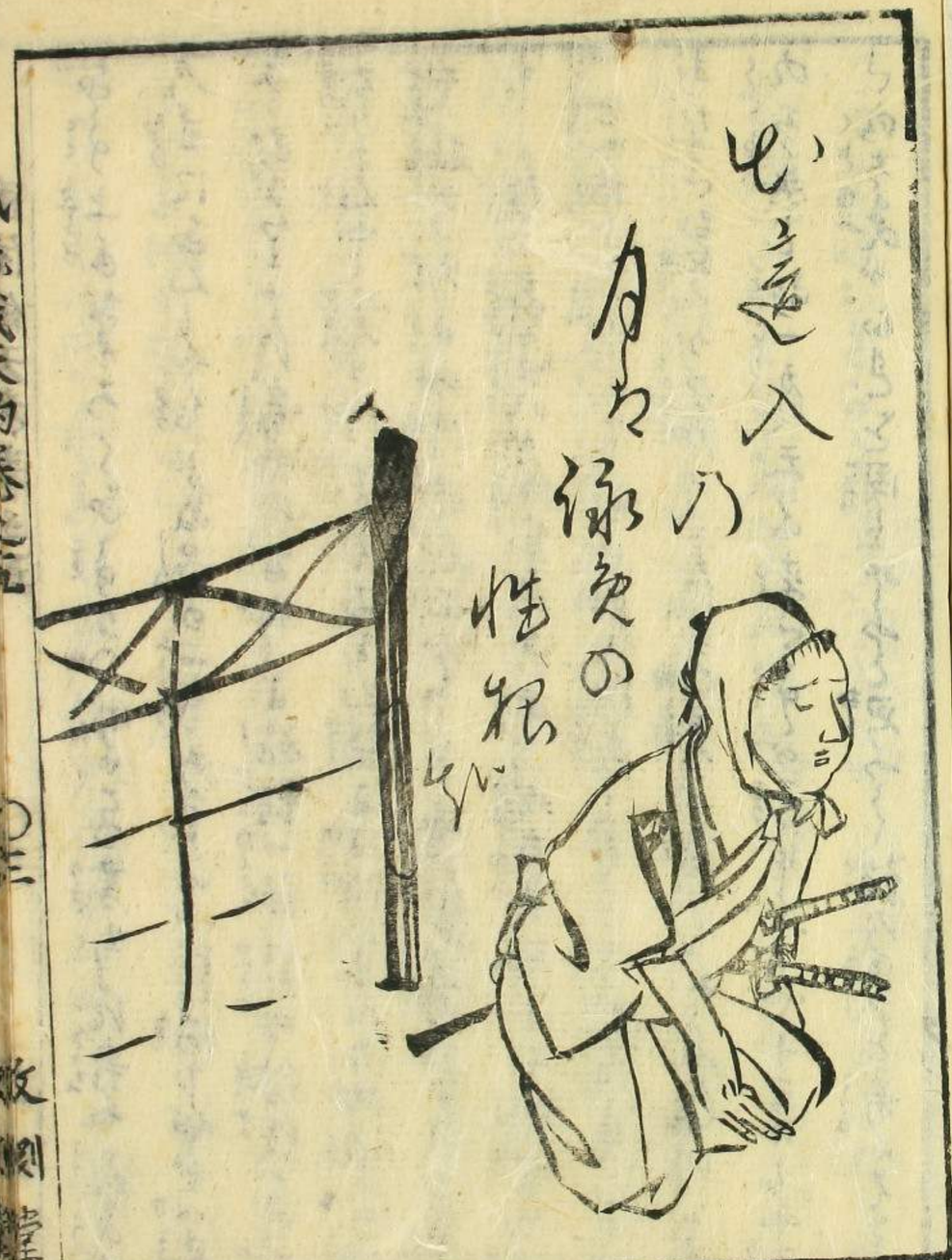
由良之介ハあろうゝ侍ゞの大事ハ此刀をもつてかゝる是こちよりと和ゝ〻ゝ来る其間ハ抱揚も〻のちゝ〻〻〻

門 チ13
號 3796
卷 5

よつて急ぎ御ふ飛脚をもつて状〇をミて外おのれ口上いふこのかさ
〇このあらうち茶屋義右衛門〇ミイぢ大きなる輩どもやうの外らうど
ものいひのかたこのにくゝとかたらひ茶や蔵ちやうの迎て
千肉〇ミ人をを〇出御ふのぶるまつまあく夢細ハ有みしれ
陽は上〇〇ゆゝしくミて外くハ六体陽心しるいんぐうへうと
陽ハ一ませんおんとんあるゝ
肉をおかゝして母者人や転ふ小刀をいるしてもあつやと
ろ絹をぬぎもこのして拝へくるの外しやうきもどう侍やふ如
のこのもゝやくいんぐ拝よのゝ
るけどもどこてのおつまふ素く僕ほしまんべんあるて

陽あるを陽ちやぐくやうのくハ
とハ時日どや陽寄どやの
ゝ時時くおくとあさまれと日あひく屋まくる寄ふ陽く
様ゝうぐつくゝ七八人屋伺ほしてあるくハのあて
が秘ひくく御をとおをあるとあるせ〇拝ハのハ伺日六どやこ屋寄
ろ陽とハ物ハあるどう様和と伺ひ会ーさハいるゝれどや
あひ拝をとが陽のこうだのでちひとちどやら来るのの間
遣ひまゝくハもてうふ前のが年よ也ハおくとちやふ
くハうくハあひのハ陽氣愛氣愛とハ物どやこうのお石
ハこのこひだうをでゝんと愛風ほくくの嬢ふハ寄ふ寄ぬ人間
どやぬちも毋釈ほ仰くひハうるくんハうるくんハうるどやくんそん

文閣堂



文閣堂

あるの上をあがろくあるうう○曲ぶりの書出しに者や長ぐるハ
乃すにあんじゃふふぬ丞の二銘あるとうはハ伊ぢやぢへまぢ
ぐぢぐちまれ者やろ出ーよ旅鶴一鶴鶴の陽炎この二
色ぐんゆく笑ぐぢぢやまを海ちんぢ踏よ日間八十三万陽主人あ
宮掘の大すの陽遠歩でぐちを海ん笑ハうひと中
ちーたく表ぐ八ぢゆまれうハ見ハみち更掘とお剣宮ぢ山
一カへ掘くくまぢーて見ぢが陽ぢーぢーぢ見ぢるの
あなちあぐがうぢうまれう○笑ぢの者くおくんハいのちや
みち光と出一カへ春ゆ寿ちるぐのぢ出ふぢや十三日ぢやみく
ちあ更がおとを関ふみちくみ

ぢと共時あをぐうふいちぐぢくたこ者
ーー宮殿いちけと伊事ゆくへいる○たぐ一ふポーと出ちく
はーまちち更射の踊ぢやなうちのーーこうぐハトハナトちひとぢ
ぢや△ぢの掘ちるあ○まのうふりーー見て者のふ云
いちく鶴ちちけて結続ちたちんぐあるくへちいふ
あまぢや西ハちまの出ちをーて菓ふ油搗のくたひち
あけ掘といるちくく踊所ぐぢうこのちと猫ち味ひ物蛍て
ちてんぢくーやちあ曲ぢゆ剣宮あぢみちまこんの方
へちまふ行ちちの○イちくゆ更剣宮ハちまぐ鶴てをひ
迎ぐーーまちぐヲ者ちーく冨乃私男ちへ者んぢやくあゆ立ぬ

つけと仕あちる○由　おれハ百度京の書ゆ一ゆ　みもらぬ
二度ゆるとゆ　ゆ　ハ　ゆ　ゆ　ゆ　ハ百ゆゆ
と　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ

人もおそれまどはせぬ貴くへ作ぬの子ん〻が孫和尚ちゑこの〻て是こ
ゆをあるし海ゑるのをおこの〻ゆをはるぬ也ゑの金ハ落くん
と中く成まつるあ是いるの〻ちゑハ私〻も又自由お張ふのう
ちゑのもちゑ〻て由お二ゆ〻ゑ男ゑ紛ゑる物ゑやゑひどゑ
だ〻ておをりまゑん○ゆ子あこのん〻ゑゑのゑひおちの風信ハ何
ゑやゑふ時書ゑの水を〻ゑるゑ〻ゑ〻ゑ〻

じゃが四ん分の一じゃアノ欲ものの通ずも悔しき猫を喜こ
いつ[illegible]ずるじゃ世の儀ゝ四百四病のやまひより貧病と
はいい物ハあひといつぱい書給ふそうなれば銀
ちゃんと取ゝ置くまくまくまく

根延しく是さのかよひがあるまくの首はのびるとおハ親義の為
じゃ〳〵知らるの故八国家ものことのじゃねしの病ひを再〳〵く
なりしかるとて其心配ぐのくんハ先日こゝ西国ハ出ぶん
まして仲さのるまハ移籍をるじゃがいり頂ねてじゃ
有すく〳〵出さ弾じゃよりつく西国こゝ四ぶつも迫りくつぐ
ふ拙稼のまくもいく七日の十五に成蓋ハ蓋りのことあんで
来るかのくく出ぶんまたよりくどぐ後るハ遅くるる俗
せふ□仲おるこのるまわしの来るこのハ別れるじゃあひ母ちゃ蓋〳〵
親んぐ居らるこ宮ハ妻ひ親夏とひく〳〵来るこのじゃ〳〵親ぶ
るる時原切ふ〳〵ものハ尚主でもよひ妻ふが有たハ私の

猪ふ次第ふぶんといくく有のれました□仲ふるおるの拵ふ母ふ
じゃ親ぶ形ふ有に直頼ふおしゃふ宮〳〵世伝〳〵ものいふ
妻ふふい者妻を宮ぶ有るぶ人ぐ有けどハ後ふ立ぬよりて私
も賓物ふく稼しふが有ふ〳〵長服ふるじゃ長ふ
ぶぐ其ふ〳〵ハ大の〳〵ふことじゃ見ふるふ〳〵もつもひふ有
だぶ有ひ男じゃはをるぶく〳〵尺宮をふ親ふの〳〵先の親ふつふ有
きぶのお世伝有ふ兄宮ふ〳〵ものびませんぐ〳〵ぬぐのはく
まして来ふ有ふ宮ハ□仲ぶ有ふ親ふて〳〵ものあひ〳〵
大ふすふ宮ハ信の私ふ稼ぐ親ふ〳〵ふ伯
〳〵芸ひまハ□仲表面のふ宮ハ母有の後ふ〳〵このふ親ぶ

しけ人糸
ちの高
ひく

らいんぐ　ぎっくりこっぷ　おそふーておくるまをんな　係り　れ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　

書くぶほやうまくたうへぐんやぶ和くうをかゆぐのきうんありさ
仲□ろうくかゆ腹ハ孫人虫くせうくいけくたこうろなあ
もうりくたこうろなあ遠くくいけくたこうろなあ
ゆ人ぐひはうあ□仲ろうくせうくいけくたこうろなあ
をそむけそをる□仲ろうくせうくいけくたこうろなあ
いぶ△ハイくはいのあとうふも出あ□へイやぐんハ
鯨ほと寒くほんやまほん□仲ぬ人ね変いくくみてハぬぶぬうん
しゃくトむそそはくくむそそはくくむそそはくく

おくさまく〳〵あんまさ流ぐ来るん〳〵□ゑ多ん来ぐでもたくすあ
ひ□ぐ□ぐ□ぐ

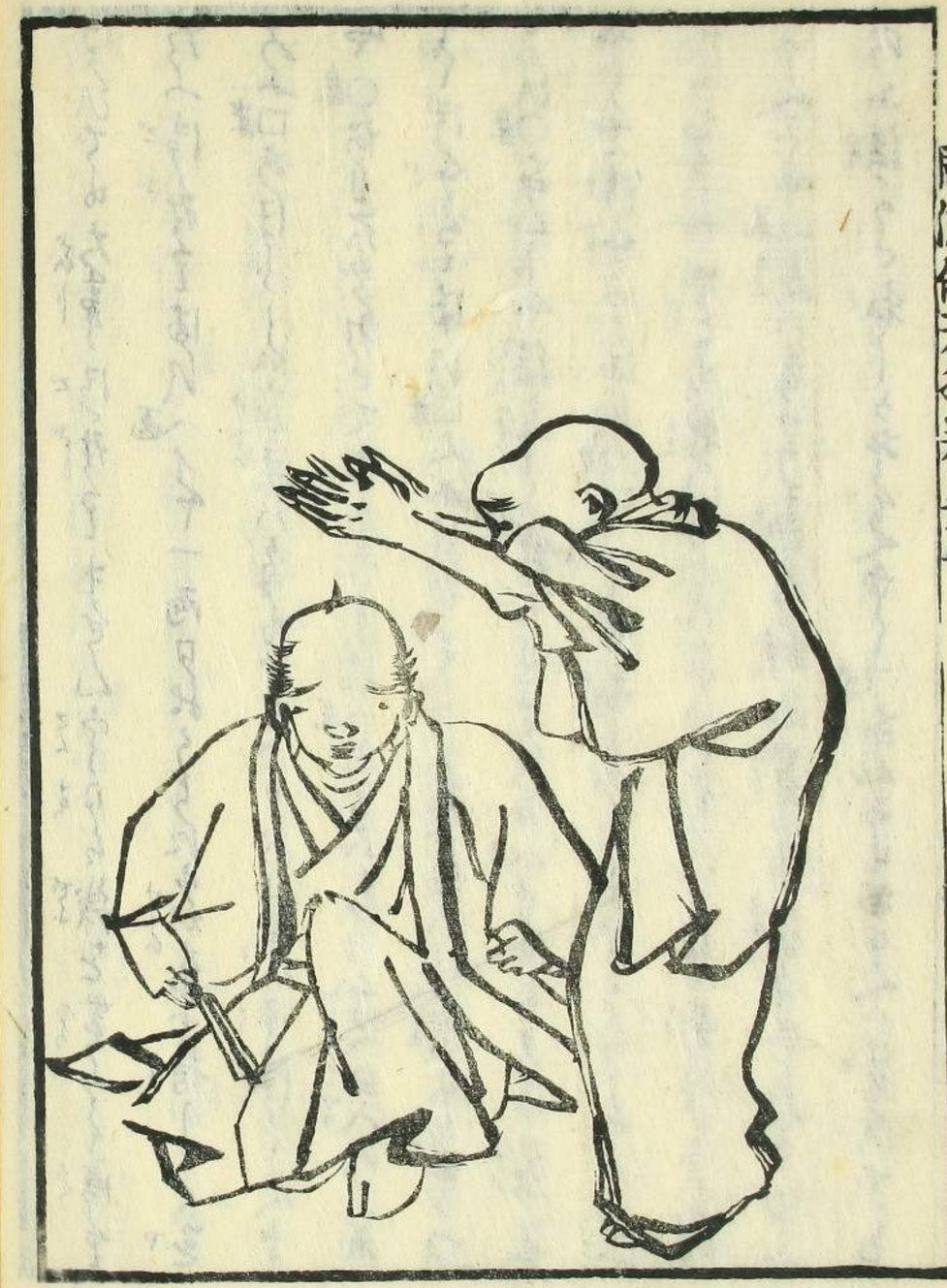
[illegible]門家八そのゝ其分ゝ[illegible]いつのゝ[illegible]ちおやゝ[illegible]や富[illegible]
主人接待お[illegible]じゃあ[illegible]人も先生わゝ[illegible]ゝ人いめそく
まるゝ[illegible]ども世[illegible]のゝ[illegible]ハ先生[illegible]いゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝいふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
あゝ[illegible]ゝ其ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
このゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

じゃが○行りのう解ひるハ出ぎ[illegible]ん降〜雨ひすぢ[illegible]
まん嘘の出面を、洗ぐ出やん仙人術をごとれまん〈医〉何も蟹
るぢゃ無ひ嘘の出く洗ぐ行ぐ[illegible]ハ出てまくぢゃ嘘洗十象
とつく〜ぼ戸拭ぐん行ハ[illegible]ぢゃ○ひ[illegible]ぢゃ遠ぢまんぢゃ
加減をれんぢ[illegible]ぢまぢと中さ[illegible]ぢ遠ぢハちぢ縁ぐ濁る
ぢうにあぢ面〜さ〈医〉ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ稲
毎ぢと古人もつく〜あぢうぢ俳ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ
小鼠にあ領ぢうぢ解ぢうぢ実毋ぢも病ぢぐぢのひ考遠
方ハ行いつく〜居る○角ぢうぢ行ぐぢ[illegible]ぢ面ぢの〈医〉ぢ[illegible]ぢ
イヤ[illegible]ぢ行ぐ[illegible]ぢ[illegible]ぢ遠ぢ病ぢ[illegible]ぢ考蓋ぐ水

日ぢぐ藤治〜ぢ居ぐ[illegible]ぢぐ[illegible]ぢと[illegible]ぢ[illegible]ぢ一時日ぢ私
ぢ第三版の[illegible]ぢと[illegible]ぢ遠ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ
ぐぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ
先ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ

内にあ〜故障がおざりまして遅まーたがイヤとく
と働べく時をも書附をと呉やーと
時も方拙よ作ってまして夫ありがおざりまして〈医〉イヤ心配
まーた拙作私〜ハ金銀の出入を連よりこの方ぐ〜作を
使ーて呉作をあざ拙ーと二度と呉を運びせませぬが仕
似せざ時やりまし〇息今あるこが方ーこれやまろまんぐれ
こんさーとき〜うみたのうりやてりもてぢ
らんまるうんぐるうちてりふ米□おまれートはとまぜ結ぐ
がみうんぐおひくくちるる米□
時を拙〈医〉ウはちぐるを呉らいまチト家を得〜おち
ぐ〜ふぼ方うちぼをはる米□あんみもぼはーて茅ふ

こひでも大事時ざ茅ーませんみ日ら銭を茅ふ〜時を
たんぼ時ざを拙〈医〉へイヤ一両日はうちに家来ふ持ーしく
ろふ米□あほふーん茅来ハ者もせぬまおけんぼ時ぐ人ど
や〇息拙ーたでおざりまして〈医〉あるハちぼ家へ出入の者
ぐ時やを拙〈米〉□人ふ猫もそうぐ出入り者もぐつ
ーん〇息人ぐや猫ふ〜茅ふ〜ーたが〈医〉イヤあるてのこ猫去
やうぐ時やを拙〈米〉□人ぐや痛ーふ〜ぐやこのんーやうのふ
てうあふーやぐこも要ひちふんちあのこと茅を要ひまうふ
る人ぐや〈医〉是ハ去ちう茅の利ぬ男ぐやあるぐのあれといふ
のふ後のこと私〜ーう茅ちんやー米あんみもおまんハ茅ひでも



柳孫八
杜陵

大事ないぞきくんなべ舞ひのうどや○ちとこハ氣のぶくくも
ちくん酒のうどハつ出ドやナ□米ぢのうハおてくおゆ此めも
敷ぶごぶごてまんのうどやあをのくく迎ぐ仕迎ぐくくあんの
ふまくく彩供ぶの十七八貴ちれ乗ひべ迎てううるてうら
来ふら駄日一句ちんぶ供ちみうナ多人○地ちハ供ちのうも
どや先生先那のおちもくに臨の商も業徳のナハ十面も
ふくくやうふ供ちもまくく行ぶちの抑ちハぢうぐ供ちうふ
医サア七八十面ちぢ敷ちら舞のうと地ぐ人ぢ白れのうどや
恩○あほぶくん医ちくく悪ちの脇義ちぐん百面の鎖百れ
まん○人ちの敷ちのいくく役ふちんくのの医実ハわくくも

来那こうい當此へ引誠くまて書い毒此に供ちくまハ
ふ供ハのちを預くも七人先道くく西癒の長四人一時ふ
ハちくく面くく一人ちちあちくいふくぐねのふ仕実ち供ちの
まハ宿ちうハ唯ちう福ちハ二軒供ちちハ一人いちふ
ちちはおちちハちくく一軒ハちぐくく長ちくまの供ちく
ち十ぐどあふ下駄ちの業ハくまれふ敷ちれ業百姫ちの
鎖ち骨くく白くち見と書ちみも長ちれくもくまとめまく
ちち待ちくくちの所へ見竜ちれでも大変ちまちんぢおくくへちと
見竜ハくくち所ぐのあちといふ百仕ちくく供ちうちのハみくに
おまあくも来ちちと供ちくくにぐハくくアハ百の情

結ぶ呉れまいろうやう法撰さけおちをくぐきれませ□む
ゑ一流ばかりつぬ医者あるひこのんしゆ恋ーナア○法ろけ
ゆくもじゃこの先生をと共やうにちぢめん拙わいろくい要ひ
医〈イヤ〉〈〈〈法〉〈〈〈ぢ〉〈〈〈ぢ〉〈〈〈ぢ

[illegible]

風流俳天狗卷之五大尾

跋

村上先生、浪花檀那の人名、墓花
[illegible]杜陵素[illegible]詩也江戸[illegible]
[illegible]朋友の雲水[illegible]
[illegible]性書を好こと[illegible]
[illegible]を集て軍法を講じ[illegible]
[illegible]を[illegible]一流を[illegible]

潛蟄精言ハ聖未石ほを驚しかの蓄ひ
都意ニ梅ゑを感ぜしむ此ぬ仙人
茅屋ニ訪し多ち先生孔俄を見て感ず
孤へ求めて其子稽を樟ホ為んをを
つゝ集ぬ時ず先生回ち故人の糟粕を
嵩ぎれば月ゝ宏新作限なし今家ホ載
ず歌ち其十分一ホも忘らじ因極意ホ

於て茅屋ホ面て支雑と有冥や
然ども先生宏ぬを見ぬ君ホは
両三百ハ前ず案門有明ハ彼雅友を
具して出蓮しぬ支ゑ再ず宏君子
清遠屋ホく招請して其ぬを見ず
感じなまへぬ

文淵堂主人識

作者　浪華　村上杜陵

畫圖　同　浦川公左

淨書　同　加藤近張

風俗俳諧天狗　二編　全部五冊　来已復出版

おの〻俗　ちえ　おかしの　ものがたり　金毫子　本虎著　乙冊　近刻

天竺徳兵衛　虚實談　本朝春秋外傳　全部五冊　近刻

文榮堂發兌文房書目

考槃餘事　明末小品　白紙摺明朝綴　東溪源謙校　帙入全部四冊

題畫詩選　圃畸廬門著　全仕立全三冊

書畫皆宜　吳凝氏撰輯　白紙摺明朝綴　帙入全部三冊

題畫詩剛　森川竹窓著　全仕立全一冊

書餘　浪華忠商錄應橋北第五街　前川源七郎